

クラス	310	担当教員	伊藤 修毅
テーマ	障害のある子ども・青年の教育・福祉・労働		
著書・論文	【著書】『障害のある青年たちとつくる「学びの場」』(監修)かもがわ出版 2020、『障害のある子ども・若者のセクシュアリティ』(単著)全障研出版部 2020 ほか		
研究課題等	【論文】「知的障害特別支援学校卒業後の教育の場における教育内容—学校専攻科と福祉型専攻科の比較検討—」(日本福祉大学子ども発達学論集 2018)、「決してタブーではない障害児(者)の性を考える」(小児科診療 2019)ほか		
	【研究課題】「知的障害青年の継続教育」「知的障害児・者の包括的セクシュアリティ教育」		
ゼミナール概要			
キーワード：障害児（特別ニーズ）教育 セクシュアリティ教育 進路保障			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>このゼミでは、障害(様々な特別なニーズや困難を含む)のある子どもや青年の抱える様々な困難に着目し、その課題を「社会問題」として検討します。障害等にもなう困難は、生活する「社会」との関係によって大きく変化します。ゼミ生には、その「社会」に目を向け、その「社会」を構成する一市民としての課題や、自身が目指す専門職の役割を考える力を養ってもらいたいです。原則として特別支援教育を担う教師や障害児・者を支える職を目指している学生を対象としていますが、この目的に沿った研究への「やる気」があれば進路希望は問いません。</p> <p>研究テーマとしては、「特別支援教育の内包する諸課題」「障害児・者の性(セクシュアリティ)教育」「知的障害青年の修業年限延長の課題」「障害児者の青年期とキャリア教育」等、様々なものが想定されます。現時点でとりあえず何らかの問題意識をもっていることも大切ですが、3年前期のゼミ活動を通して、その問題意識を広げたり、深めたりして、徐々に、卒業研究のテーマとして具体化していってもらえればよいと考えています。(1年次の「思春期のセクシュアリティ」の学びを更に深めたいという方も歓迎です！)</p> <p>したがって、3年前期の主たる目標は「広げる」です。興味・関心のあるテーマに関わるたくさんの資料や文献を整理し、共有し、「どこにどのような問題が所在するのか」を検討していきます。夏休みには、学習を中心としたゼミ合宿を行っていますが、これはゼミ生が主体的に計画を進め、十分な事前・事後学習を行うことが求められます。後期に入る頃には、それぞれ、「仮」の卒業研究テーマを決め、研究をスタートさせます。以後、4年次にかけて、教育実習や教員採用試験の合間をぬって研究を進めていくこととなりますので、計画的に研究を進めることを大切にしています。</p> <p>一人ひとりが、それぞれの研究テーマに向かって研究を進めていくこととなりますが、お互いの研究を討論しあって、よりよいものにしていくことがゼミという集団の役割です。発表者は、レジュメやパワーポイントを用いてわかりやすい発表をめざしてください。同時に、聴く側は、しっかりと仲間の発表を受けとめ、建設的な批判を行い、仲間の研究をよりよいものに発展させていってください。</p> <p>なお、全国各地で行われている研究会等の中には、学生の参加を歓迎してくれるものが少なくありません。ゼミ生には、こういった研究会等を適宜紹介するので、積極的・自主的に参加してほしいと思っています。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>①『楽』ではないけど『楽しい』ゼミを目指しています。必修だから卒業研究をやらされるという気持ちではなく、自分自身の大学4年間の学びの集大成としてポジティブな気持ちで卒業研究に挑んでくれる学生の皆さん、一緒に楽しいゼミを創って、「達成感」の持てる卒業論文を書きましょう！</p> <p>②11/25(金)3限・4限のゼミの見学OKです！(712教室にお越しください)</p> <p>③11/28(月)4限・11/29(火)3～5限に面談を受け付けます。入ゼミ希望者は、面談必須です。面談を希望者は、事前にメールでご連絡ください。(その際、希望日時をお示しください)</p> <p>④コロナが収まっていれば、卒業旅行は、海外に行くぜよ！</p>			